

令和7年度（藤沢清流高等学校）不祥事ゼロプログラムの検証等

○ 課題・目標別実施結果

課 題	目 標	実施結果と目標の達成状況
公務外非行の防止（法令遵守意識の向上）	教育公務員としての自覚と意識を高め、信用失墜行為を未然に防止する。	職員会議後に不祥事防止職員啓発資料等を活用して事故防止会議を開催し規範意識を高め、公務外非行の防止を図ることができた。
職場のハラスメント（パワハラ、セクハラ、マタハラ等）の防止	人権意識を高めるとともに、職場でハラスメント行為がないよう人間関係の悪化を未然に防止する。	不祥事防止研修による意識啓発や個別面談での聞き取りを丁寧に行うなどの相談しやすい職場環境づくりに努めた。
生徒に対するわいせつ・セクハラ行為の禁止	生徒との適切な距離感の認識を持ち、わいせつ・セクハラに対する予防強化体制を構築する。	職員相互で行動の見守り活動や、職員への声かけと教科準備室の適切な利用を徹底し、事案が起きない環境整備を推進した。
体罰、不適切指導	生徒への体罰、不適切指導を決して起こさず、学校に対する信頼を確保する。	人権に関する研修会を実施し、不適切な指導とならないように働きかけた。生徒が気軽に相談できるよう、相談体制を整備した。
入学者選抜、成績処理及び進路関係書類の作成及び取り扱いに係る事故防止	ミスは起こりうる、誤りはあるとの前提に立ち、ミスを発見しやすい環境づくりとチェック体制の整備に努め、事故を未然に防止する。	入学者選抜では変更点を綿密に検討、確認し、事前研修を充実させるなど、事故防止に努めた。成績処理の点検確認は他教科を交えて複数回実施したり、推薦要件の確認を複数で行うなどの体制を見直した。
個人情報等管理、情報セキュリティ対策	個人情報の流出を防ぎ、情報セキュリティを保持する。	USBメモリ等の外部記憶媒体を適切に管理し、個人情報のデータの扱いを徹底し、事故防止に努めた。
交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止、交通法規の遵守	交通事故を起こさないよう細心の注意をもって運転する。飲酒しての運転は絶対に行わないという強い意識を持つ。	過去の事例等を参考に研修を行うなどして、自ら交通法規を遵守し、安全運転を心がけて、事故の発生を未然に防止するように働きかけることができた。
業務執行体制の確保等（情報共有、相互チェック業務協力体制）	業務執行は、各グループや学年、教科において情報を共有しながら相互に点検、整備をおこない、働き方改革と事故防止につなげる。	企画会議やグループ会議、学年会議等において業務の見直しを図り改善を進め、業務が一人に偏ったり、遅滞したりしないように、相互に協力体制をとりながら業務を遂行することができた。
財務事務等の適正執行	規則に基づいた適正な会計処理及び財産管理を徹底する。	事故防止研修を通じて全職員が会計処理について理解が深まるように働きかけた。

○ 令和7年度における不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と今後の課題（学校長意見）

確認しながら業務を行っていたが、細部に見落とし等があり改善の必要性を認識した。業務の効率化とともに、現状の課題を捉え、個人や小さな単位のグループではなく、組織的に業務改善していくことによって事故防止につなげられるように、次年度は取組んでいきたい。